

# つながろう、音楽広島

～コロナをきっかけに“私たちが今できること”を考える会を開きました～

令和4年1月7日

オンライン音楽座談会【11月22日、12月21日】を実施しました。

県教育委員会では、コロナ禍における音楽科教育について語り合い、今後の授業づくりのヒントを得るとともに担当者同士のつながりを深めることを趣旨とした「オンライン音楽座談会」を、これまでに2回実施しました。

気軽に参加してもらえよう、15:30～16:30という短時間の設定の中で、グループ協議や全体交流を通して、各学校の取組を紹介し合うことができました。その一部を紹介します。



## コロナ禍においても、音楽の授業でこんな工夫をしています！（参加者の声から）



座る位置に1mごとにポイントを打つなど、密にならないように工夫しています。感染状況によっては、年間指導計画の中の題材を入れ替えることもありました。

合唱では、パートや小グループで、別室に分かれて換気しながら練習を行いました。また、声に耳を傾けることを大切にして、「聴き合う」という活動も効果的でした。

リコーダーは使ったら必ず洗わせています。共用楽器の場合は、手指消毒をし、（可能な楽器は）楽器も消毒しています。

大きな声を出せない、マスクで呼吸しづらい等の状況がありますが、子供達には「やさしい声を身に付けるチャンスだよ」という話をしています。コロナだからこそという指導を大切にしています。

合唱や合奏の代わりに、ボディーパーカッションやクラッピングミュージックに挑戦しました。コロナ禍で、ICTを活用した創作の授業が充実してきました。

バディーを組んで歌うという取組で、声を出すことへの抵抗を減らすことができました。また、教師が生徒のそばで歌声を聴き、肯定的な声掛けを行っています。



全校児童が集まる音楽集会はできないので、校内のスタジオと各教室をMeetでつなぎ、オンラインで音楽集会を行っています。スライドを使って、曲の紹介等も行いました。



歌詞の内容を理解するために、詞に合う振り付けを考えるという活動も有効でした。

## こんな感想をいただきました！



コロナ禍で「困った困った」の状況ばかりではありますが、このピンチをチャンスに変える取り組みができればと日々思っていました。今日は、いろいろな取組、他校種の取組も聞け、参考になりました。また明日から、元気いっぱい生徒と音楽の授業をしていきたいと思えます。

いろんな校種、いろんな環境の実践をお聞きすることができてとても勉強になりました。たくさんの規制がかかり、心が折れそうになる中、県内に何とか音楽教育を絶やさないように頑張っておられる方がたくさんおられることを知り、勇気が出ました。これから、コロナだからこそできること、コロナだからこそ学べることを開拓していきたいと思えます。



第3回目の座談会を2月に企画しています。後日募集しますので、是非ご参加ください。

お役立ちサイト

ICTの活用場面が広がる中、座談会では「著作権」についても話題になりました。参考にしてください！

◆「学校など教育機関での音楽利用」（JASRAC 一般社団法人日本音楽著作権協会HPより）

<https://www.jasrac.or.jp/info/school/index.html>

学校などの教育機関であっても、音楽を利用する場合、著作権の手続きが必要となるケースがあります。サイト内の「学校で音楽を使うときには」のコーナーでは、学校での音楽利用の場面や行事ごとの解説等が掲載されています。

